

# 2012 国際協同組合年 ― 賀川豊彦たちの活動から問いかけるもの ―

賀川記念館 賀川 啓明 館長

国連が定めた国際協同組合年のテーマには「協同組合を紹介しよう」「協同組合を新しく設立しよう」「協同組合を大切にしよう」という全世界共通のテーマ以外に、日本の実行委員会が新しく加えた「東日本を支えよう」というテーマがあります。国連のミレニアム目標はアフリカの国ぐにをターゲットにしています。テーマは貧困です。

賀川豊彦たちの活動も同じく貧困への取組みでした。

大正から戦争までの時代の賀川豊彦たちの取組みを協同組合運動の *ver.1* とするのなら、*ver.2* は戦後から現在までの唯物主義との競争です。そして *ver.3* となるこれからは、心の貧困などの見えない貧困がテーマになると思います。

「くらしとは何か」という

しです。わたしは、住宅協同組合とエネルギー協同組合の設立がこんご大切になると考えています。

「二人は万人のために、万人は一人のために」は、協同組合運動のなかで、わたしたちがずっと使ってきたフレーズです。「わたし自身が志をもつて、みんなのために何ができるだろうか」と考えることで、ほとんどの人たちが一生懸命に考えます。これは「プラスのシエア」です。

賀川記念館・賀川啓明館長

問題は、たいへんむずかしいテーマです。カテゴリーズ（領域を細分化して把握する）だけでなく、「総合性」という視点から把握する必要があります。あるのではないかなと思います。豊かな生活とは、他者とともに生きるくらしであり、生きる工夫をするくら

一方、「万人は一人のために」というのは、「マイナスのシエア」です。「万人は一人のために」の「一人」は、痛みをもっています。痛みをもっているからこそ、万人の寄りそいが必要なのだと思えます。

東日本の人びとと寄りそい、痛みをシェアしながら共に生きていくことが大切だと感じます。

